貴輪拝見仕候
本日十日午後二時
霊廟に於て園遊
会市俗式
同妃両殿下御臨場
之儀一系計
陪賜之栄
東京之栄茅墓
上略仕候尚日

上略 此外寄尚日
西郡下共以一書
下命 有之外也
彼方敵方
中進 此外 無御
以清三年五月三日
稱名 豪名 高麗
伯耆大隈重信閣下
同 合 夫人
遵当西天之下
聖上 万歳 万歳

ヒタカチチブ　日高秩父（一八五一―一九二〇）

明治大正時代の書家。嘉永五年十二月五日、日高頼長の男として下野國栃木町に生る。梅溪と號す。明治初年東京に出でて學事を修め、八年職を陸軍省に奉じ、次いで奈良縣に轉じ、翌九年更に東京府に轉任、精勤すること七年、宮内省に出仕し、三十二年梨本宮家令に任ぜられた。三十六年内大臣祕書官を兼ね、更に侍從職に兼勤、四十年内大臣祕書官となり小松宮家令、梨本宮御用掛を兼任、恭謹精勵を以て聞えた。學廣く和漢に通じ、就中書は夙に長三洲に學び筆力雄健、清高風尚を以て諸學校の教科用習字帖に選ばれた。大正九年四月十九日歿、年六十九。（森谷）